

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-240831

(43)Date of publication of application : 11.09.1998

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

G09G 5/00

(21)Application number : 09-060195

(71)Applicant : TOTAL SYST KENKYUSHO:KK

(22)Date of filing : 28.02.1997

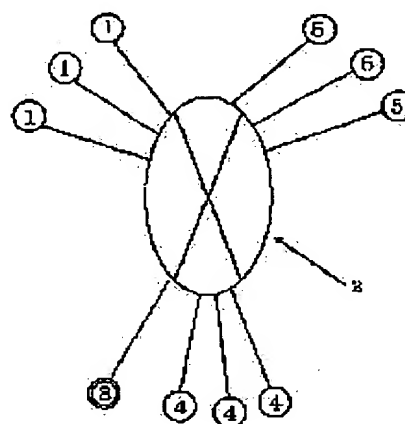
(72)Inventor : SUZUKI TAKESHI

(54) HOMEPAGE OPENING SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To actualize the mechanism for commercial advertisement that conventional mass media have cultivated on internet and to inquire more homepages for more people by recording and managing subhomepages on a server and opening a subhomepage together with a homepage requested to be browsed at the time of homepage inquiry.

SOLUTION: A homepage provider 1 connects to sites 3 and 4 through the Internet 2 to register a homepage on servers of the sites 3 and 4. When the homepage is provided from the homepage provider 1, subhomepages are added to the homepage automatically at the sites 3 and 4. The main site 3 controls a connection with the homepage provider 1 or a general member 5 and provides the subhomepage while providing the homepage for the general member 5. Therefore, when the general member 5 browses the homepage, the subhome is added unconditionally.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

02.05.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japanese Patent Office

【特許請求の範囲】

【請求項1】 インターネットのホームページの公開において、(1)ホームページ提供者から寄せられたホームページ、およびホームページの紹介や広告宣伝となるサブホームページをサーバーに記録、管理する手段、(2)ホームページ照会に際し、閲覧要求のあったホームページとともにサブホームページを公開する手段を備えたことを特徴とするホームページ公開システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、インターネット上でのホームページの作成、登録、照会、ならびにより多くのホームページを一般会員にホームページを公開するシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】 インターネットは1970年、米国国防省高等研究計画局がコンピュータネットワークとして開発したARPANETから始まっている。インターネットで使用するプロトコルはTCP/IPという独自のプロトコルであり、相互接続を繰り返しながらアメーバ状に拡大してきた。現在、世界120ヶ国の地域で、サーバーは660万台、ユーザー端末機は6000万台とも7000万台ともいわれている。その台数は毎日のように増加しており、その台数を正確に把握するのが難しいのが現状である。

【0003】 インターネットのプロトコルTCP/IPは全世界で共通であるために、世界のどの地位からも、またどの地域にも接続が可能になっている。インターネットでは個々のユーザーを特定するために、ユーザーには32ビットのIPアドレスが割り当てられる。IPアドレスの割当はプロバイダー、サブプロバイダーとよばれるNIC (Network Information Center) あるいはその下部組織で管理しており、インターネット利用希望者はプロバイダーからIPアドレスを申請し、取得するとインターネットが利用できる。また企業のような組織ではIPアドレスの代わりにDNS (Domain Name System) が割り当てられる。

【0004】 インターネット用ソフトとしてはWWWや、モザイク、ネットスケープなどのブラウザーが開発されている。WWWは“World Wide Web”の略称であり、もともとは欧州粒子物理学研究所が開発したサーバーソフトの名称である。WWWの機能の一つにネットワークナビゲーションがあり、ユーザーが求める情報をインターネット上のコンピュータを渡り歩きながらランダムアクセスすることができる。これをネットサーフィンという。WWWはテキストデータだけでなく、音声や画像などのマルチメディアも取り扱える。またユーザーはWWWのサーバーの一部を借りてホームページを開設することができ、情報の取得だけでなく、情報の提供者 (IP: Information Provider) となることができる。

【0005】 WWWはもともと研究者用に作られたソフトであるために、ユーザーインターフェイス (GUI) はあまりよくない。そこでWWWサーバーを簡単に利用できるように開発されたソフトがモザイクである。またモザイクを改良したソフトがネットスケープである。

“あちらこちら拾い読みをする人” という意味のブラウザーは、インターネットではネットワーク上のデータベースを拾い読みするという意味で使われる。モザイクもネットスケープもブラウザーの一種である。またマイクロソフト社がWindows95に組み込んであるインターネットエクスプローラーもブラウザーの一種である。

【0006】 ホームページは、だれでも契約したプロバイダーのサーバーに登録し、インターネットを通じて一般に公開することができる。ホームページは文字情報だけでなく、画像やサウンドを情報として付加できる。このための記述言語として、HTMLやJavaがある。とくにJavaは、Windows、UNIX、OS2、MacOSなどのOSに依存しないプログラム言語であり、しかもグラフィックや動画が扱えるという特徴をもっている。たとえば、タイトルを電光掲示板のように動かしたり、Webページ上で数値を入力すると、その数値計算結果をグラフ表示することができる。

【0007】 ホームページは、個々のホームページを識別するためのURL (ホームページアドレス) が付けられる。一般ユーザーは、希望するホームページのURLを入力することによって、開設されているコンピュータと接続して該当のホームページを閲覧することができる。しかし文字数の長いURLを入力するのは面倒であり、またサイト (プロバイダー) がわからない、あるいは掲載されているサイトは知っているが、URLがわからないということが多い。そこで頼りになるのがサーチエンジンである。サーチエンジンは不特定多数のホームページ (URL) を収集、整理し、そのホームページが所属するサイトとの通信接続を行い、直接URLを入力しなくても希望するホームページを閲覧することができる。

【0008】 一般ユーザーは検索するホームページはサーチエンジンから見つけ出し、いったん求めるホームページが検索されると、サーチエンジンはホームページが公開されているサイトと接続を行い、あとは直接サイトと一般ユーザーとのやり取りになる。このようなことから、サーチエンジンは「検索サーバー」ともよばれている。世界中でもっとも有名なサーチエンジンの一つにYahoo (ヤフー) がある。その日本語版がYahoo Japanである。サーチエンジンでは、政治、経済、スポーツ、音楽、絵画など、ほとんどのジャンルがカバーされている。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】 ホームページは、不特定多数の人または特定の人に見てもらうために開設する

インターネット上での通信手段である。しかし現実的には、多くのホームページは人の目に触れることは少ない。その原因は、多数のホームページがあり、他人に宣伝する機会が少ないことにある。

【0010】従来技術で述べたサーチエンジンはプライベートのものであって、従来の強制的に割り込みを行う公開された広告宣伝とは異なる。たとえば、新聞、雑誌、テレビやラジオにおけるコマーシャルとは異なり、あくまでも1対1の関係でしかない。サーチエンジンには、広告宣伝、公開、非公開の共通ホームページなる方法もあるが、従来のマスメディアの広告宣伝機能を超えるものではない。

【0011】以上の点を見る限り、インターネット上のホームページの閲覧は電話回線本来のプライベートな会話方式に限られているために、インターネット本来の情報公開の機能がフルに活かされず、従来のマスメディアの宣伝効果をインターネットが代行できないという問題がある。

【0012】その点、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等のマスメディアによる広告宣伝は、好むと好まざるとにかかわらずに強制的に読者、視聴者、聴衆者の耳目に届く。電車内の広告さえ、何気なく目にする。そこに、長年培ってきたマスメディアの優れた仕組みがある。本発明の解決しようとする課題は、従来のマスメディアが培ってきた宣伝広告の機構をインターネット上で実現させ、より多くの人に、より多くのホームページを照会するシステムを開発することにある。

【0013】

【課題を解決するための手段】本発明は上記課題を解決するために、インターネットのホームページの公開において、一般ユーザーが自由にホームページを登録できるようなインターネット上のサーバスペースにサイトを設け、当該サイト上に一般ユーザーから自由にホームページを登録する仕組みを設ける。また、当該サイトへのホームページの登録に際しては、自動的に（強制的に）サブホームページを付加する仕組みを設ける。サブホームページは当該サイトで有料で管理する。サブホームページには、自他のサイトの他のホームページへのリンクを設け、マウスクリック（またはそれに代わり入力手段）で自動的に自他サイトの他のホームページへの接続が可能となる。また、ホームページには広告宣伝等を掲載する。

【0014】上記のホームページ公開システムにより、一般会員はホームページのほかにサブホームページを同時に閲覧することになる。これによって、一般会員はこれまで以上に多くのホームページを、意識する、しないにかかわらず目にするようになる。

【0015】本発明のシステムではほかに、HP管理データベース、ホームページデータベース、カウントデータベース、メンバーリストデータベース、ログデータベ

ース等からなる相互に関連をもつデータベース管理システムを導入する。

【0016】

【発明の実施の形態】本発明のシステムの実施の形態について説明する。図1は本発明が対象にする構成要素である。ホームページ提供者1は、インターネット2を通じてサイト3またはサイト4と接続し、サイト3またはサイト4のサーバーにホームページを登録する。一般会員5はインターネット2を通じてサイト3または4に接続し、ホームページを閲覧することができる。サイト3は中心となるサイト（メインサイトまたは当該サイト）であり、ホームページとサブホームページを管理している。サイト4はホームページを登録管理しているが、直接的にはサブホームページの管理を対象としない一般のサイトである。

【0017】ホームページ提供者からホームページを提供してもらうときに、自動的に当該サイトでサブホームページをそのホームページに付加する。ホームページ提供者が行うホームページの提供は無料で自由であるが、ホームページ提供を行うにはサイトと契約を結ぶ必要がある。この契約の内容は少なくとも以下のものを含む。

【0018】(1)ホームページの管理はサイト側の管理するサーバスペースで行われるために、どのサブホームページをどのくらい、どのホームページに付加するかは決定権は、サイト（図1のメインサイト3）側にあるものとする。

(2)またホームページを一般会員に提供するかは判断は公知良俗の範囲において、サイトが決定できるものとする。

【0019】以上のような内容を含めることによって、著作権上、管理上のトラブルを回避するようにする。上記の契約に基づいて、メインサイトはホームページ提供者または一般会員との接続のコントロールを行う。ホームページを一般会員に提供するとき、サブホームページも同時に提供する。どのサブホームページを、どのくらいの時間提供するかも、メインサイトが決定する。

【0020】本発明の重要な点は、一般会員がホームページを閲覧したときに、無条件（自動的かつ半強制的）にサブホームページが付加される。図2は表示の一例であり、サブホームページをどのような形で表示するかは、メインサイト3のプログラミングデザインによって異なる。プログラミング言語としてはHTMLやJava等が使えるが、この点に関しては本発明の範囲外である。いずれにしても、本発明のホームページ提供形態によって一般会員は従来の倍のホームページを目にするようになる。

【0021】図3は、メインサイトのサーバーで管理する、本発明のシステムにおけるデータベース構成である（以降、データベースを“DB”と記述）。ホームページ登録DBはホームページ提供者から寄せられたホーム

ページを記録するDBであり、HP管理DBはホームページのタイトル等の属性データを記録したファイルである。カウントDBはホームページごとに、一般会員からのアクセス回数をカウントアップし、累積値を記録したDBである。

【0022】これによって、ホームページを有効に管理したり、人気ホームページの算出などの統計処理を行う。メンバーリストDBはホームページ提供者および一般会員のうち、有料で登録されたメンバーを記録したDBである。メンバーリストDBに登録されたメンバーはアクセスの優先権やページシステムからの情報提供等の恩恵が得られる。ログDBはサーバー上のDB等のアクセス記録を残すためのDBである。サブホームページDBは、サブホームページ提供者のリストやサブホームページに関する属性データを記録したDBである。このDBに登録されるサブホームページは文字情報のみならず、イメージデータも属性として登録できる。

【0023】ホームページ提供者はホームページをサイトのサーバーに登録するだけで、ホームページの公開ができる。さらに、広告としてのサブホームページを登録すると、他のホームページ（メインホームページ）を提供中にサブホームページが一般会員に提供される。ホームページのアクセス回数やサブホームページの公開回数はカウントDBに記録されているから、のちに統計資料としてグラフや表で表すことができる。つぎに、各DBの内容を簡単に説明する。

【0024】(1)ホームページ登録DBのデータ構成

- ・固有番号
- ・ホームページコード

【0025】固有番号はホームページ提供者の電子メールアドレスに対応した固有の番号である。この固有番号ごとにホームページがDB登録される。ホームページコードはHTMLやJava等のプログラム言語で記述されたホームページコード（プログラム）である。

【0026】(2)HP管理DBのデータ構成

- ・固有番号
- ・登録日時等のホームページ項目

【0027】固有番号はホームページ登録DBの固有番号に対応した番号であり、ホームページ登録DBと1対1の関係にある。このDBには、登録日時やホームページの属性データが記録される。

【0028】(3)カウントDBのデータ構成

- ・固有番号
- ・ホームページ閲覧アクセスカウント数

【0029】固有番号はホームページ登録DBの固有番号に対応した番号であり、ホームページ登録DBと1対1の関係にある。このDBはホームページのアクセス回数を記録するDBであり、のちの統計資料となるものである。

【0030】(4)メンバーリストDBのデータ構成

- ・固有番号
- ・電子メールアドレス

【0031】固有番号はホームページ登録DBの固有番号に対応した番号であり、ホームページ登録DBと1対1の関係にある。このDBはインターネット上での固有の電子メールアドレスおよび住所等の電子メールアドレス関連属性データ、さらに応答回数等記録したDBである。

【0032】(5)サブホームページDBのデータ構成

- ・固有番号
- 10 ・サブホームページ関連データ

固有番号はホームページ登録DBの固有番号に対応した番号であり、ホームページ登録DBと1対1の関係にある。このDBはサブホームページ関連データを記録したDBである。ホームページはメインサイトまたは一般サイトに管理されているが、ホームページの提供にあたっては必ずメインサイトを経由する。図4に示すように、メインサイト3または一般サイト4のいずれかのホームページを提供する場合でも、必ずサブホームページはメインサイト1のサブホームページDBから付加される。

20 【0033】(6)ログDBのデータ構成

- ・時系列
- ・ログデータ

時系列にDBをアクセスした全記録を取るためのDBである。他のDBとは異なり、このDBは独立している。

【0034】図5は、本発明のページシステムの利用時の処理の流れである。インターネット上に登録されているユーザーIDとパスワードを入力することによって、所属するサイト（契約関係にあるサイト）と接続する（S1）。

30 【0035】アクセス選択で閲覧か登録を選択する（S2）。ホームページを提供しようとするものはブラウザ上で指定サイトURLを選択し、ブラウザ上でホームページ登録DBに接続でき、ホームページの登録が行え、そのホームページのアップロードもできる。ホームページのアップロードについてはFTPモードを利用することができる（S6）。なお、サブホームページの登録処理はメインサイト側で行うものであり、図5のフローチャート上には直接的には現れない。

40 【0036】アクセス選択で閲覧を選択すると、ホームページ閲覧処理となる（S3、S4）。このとき、無条件に、しかも一定時間、サブホームページがホームページに付加される。したがって一定時間、一般会員はサブホームページを目にすることになる。ここに、本発明のページシステムの特色がある。

【0037】

50 【発明の効果】ホームページ提供者は自己宣伝のために、当該サイトにホームページを登録する。自分のホームページの存在をより多くのユーザー（この場合、一般会員）に知ってもらうために、進んで他のホームページとのリンクを設ける。このホームページ提供者の行動を

利用して、ユーザーに対して当該ホームページを「くっついて離れない」一つ以上のホームページすなわちサブホームページを付加する。このことで、当該サイトの提供するサブホームページはホームページ提供者がリンクするあらゆるサイトのホームページにリンクされ、ユーザーに閲覧される。すなわち、当該サイトが提供するサブホームページの閲覧者数Sは、サイトがサブホームページの登録を指定したホームページ登録者K、そのホームページがリンクしているサイト数Nと、そのリンクによって閲覧するユーザー数Mの級数和で閲覧者数が増えることになる。

【0038】 $S = \{M(1) + \dots + M(N < 1 >) \} + \dots + \{M(1) + \dots + M(N < k >) \}$;

【0039】また、こうした閲覧者に対して、他のホームページの宣伝やそれへのリンク、商品宣伝等の広告宣伝をサブホームページ上に提供すると同時に、サイト自身へのホームページ提供者を募集する広告宣伝を行うことにより、当該サイトの魅力を拡大し、当該サイトへのホームページの登録を爆発的に増やせる。サブホームページ上に当該サイトへのホームページ提供を宣伝することで、サブホームページ閲覧者に対する一定の割合Pでホームページ提供者Kを時間Tとともに増やせる結果をもたらす。

$K = K \times (1.0 + P)^T$

【0040】したがって、Pの値によっては、短期的にサイトへのホームページ提供者を目的に応じた数に到達させることができ、結果として閲覧者の数も爆発的に増

やせる。また、どんなサイトもこの仕組みを容易に構築することができるので、インターネット上のすべてのサイトでこの方式が採用されれば、ホームページの閲覧者は天文学的数字で拡大することが予測される。

【0041】本発明の有効な利用法の一つとして、バーチャルショッピングが挙げられる。本発明のページシステムはサブホームページを商品の広告、宣伝のツールとして利用できるから、販売促進に役立つ。またユーザー（この場合は、消費者）には多くの商品が自分がサーチしたホームページの商品以外の商品も目にする事ができるから、より商品選択の機会が増えることになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態におけるインターネット上の構成要素を説明するための図である。

【図2】本発明の実施の形態における一般会員に提供する画面の構成例である。

【図3】本発明の実施の形態におけるデータベースの構成を説明するための図である。

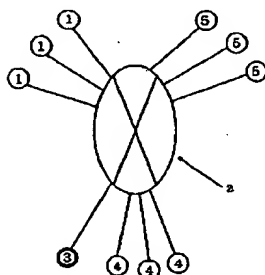
【図4】本発明の実施の形態におけるサブホームページDBの利用形態を説明するための図である。

【図5】本発明の実施の形態における利用形態における処理の流れを説明するためのフローチャートである。

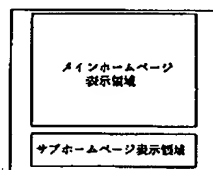
【符号の説明】

- 1 ホームページ提供者
- 2 インターネット
- 3 メインサイト（当該サイト）またはそのサーバー
- 4 一般サイトまたはそのサーバー
- 5 一般会員

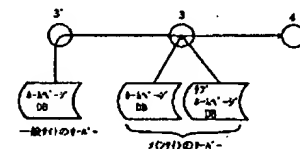
【図1】



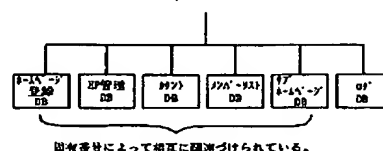
【図2】



【図4】



【図3】



図有番号によって相互に関連づけられている。

【図5】

